

大地震が発生したら

～いざというとき冷静に行動できるよう、日頃から準備をしておきましょう～

今年、1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災から、100年の節目に当たります。

この時の地震は、マグニチュード7.9と推定され、地震に伴い発生した火災などにより、約10万5千人の方が命を落としました。

ここ最近、全国で地震が相次いでおり、今年の5月には、石川県で震度6強、鹿児島県および千葉県で震度5、東京都でも島しょ部で震度5弱を観測しており、1か月で震度4以上の地震が17回発生しています。

東京都による「首都直下地震等による東京の被害想定」では、マグニチュード7.3規模の首都直下地震(多摩地域を震源とするものも含む)が30年以内に70%の確率で発生するとされており、奥多摩町でもいつ大地震が発生してもおかしくありません。

大地震が発生したときの行動や避難について、また、家具の固定などの安全対策、備蓄や非常持ち出し品などについて、ご家庭内や地域で日頃から話しあい、備えておきましょう。



◎防災行政無線(Jアラート)による緊急地震速報について

奥多摩町で震度5弱以上の地震発生が予測された場合、防災行政無線(Jアラート)により、緊急地震速報が自動音声で「(チャイム)大地震です。大地震です。」と流れます。緊急地震速報が流れてから、地震の強い揺れが来るまでの時間は、数秒から数十秒しかありません。その短い間に、身を守るための行動を取る必要があります。

◎大地震が発生したときは、すぐに身を守る行動を

【家の中では】

頭を保護しながら、大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる。揺れがおさまるまでは、あわてて外へ飛び出さない。避難路確保のため玄関などの扉を開ける。もし可能ならば火の始末、火元から離れている場合は無理して火元に近づかない。

【屋外にいるときは】

ブロック塀や自動販売機など倒れてきそうなものから離れる。看板、割れた窓ガラスの破片が落下することがあるので建物の周囲から急いで離れる。

【山やがけ付近にいるときは】

落石やがけ崩れが発生しそうな場所から急いで離れる。

【自動車運転中のときは】

あわててスピードを落とさず、ハザードランプを点灯させながら徐行し、周囲の状況を確認して道路左側に停車させる。エンジンを止め揺れがおさまるまで車内で待ち、揺れがおさまったら、ドアをロックせずキーをつけたまま車外に出て、安全な場所へ避難する。

【電車・バスに乗車中のときは】

つり革、手すりなどにしっかりつかまり、車外に投げ出されないように気を付けるとともに、車掌または誘導員の指示に従う。

*これらは、状況によっては、すべてが100%正解であるとは限りません。

もし、ご自身が普段いる場所で大地震が発生したらと想像し、いざというとき冷静に行動できるよう、日頃から考え、備えておくことが大切です。